

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170100937		
法人名	株式会社 ツクイ		
事業所名	札幌山鼻グループホーム		
所在地	札幌市中央区南15条西13丁目2-18		
自己評価作成日	平成25年12月13日	評価結果市町村受理日	平成26年1月27日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kan=true&JigyosyoCd=0170100937-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

現在、各ユニットに計画作成担当を配置し、各ユニットの中心として位置づけ職員をまとめております。更に、介護リーダーを設け職員の中心となっております。また、より良いサービスが行えるよう一部、組織編制行いユニット間の交流を更に深める為、職員のシャッフルを行いみんなで18名のお客さまをケアしていく心構えで進めております。

特に力を入れている点は、医療連携にあります。訪問診療は毎週月曜日に行われドクターとは24時間対応していたいております。どんな些細なことでも電話対応していただき指示を出していただきます。場合によってはいつでも駆けつけていただきます。ご本人様を含めご家族様もとても安心されております。また、通常の往診の中で運動機能維向上や廃用予防に関しても助言をいただき具体的な運動メニューを個別にプランへ盛り込んでおります。更に今年度に入りまして2件の看取りを行いました。これにつきましてドクターと密に連携を取りご家族様とも情報を共有しながら全職員と共に行われ手前味噌ではありますがご家族様にはとても感謝されました。

もう一つの特徴としましては、当グループホームには「認知症ケア専門士」もあり認知症を専門としたスタッフもおります。更に現管理者は認知症サポーターのキャラバン・メイトの認定も受けており認知症に特化した組織作りを進めております。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成25年12月26日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム ツクイふれあいの家」は市電の停留所から、徒歩で5分ほどの交通便がよい住宅街に立地している。建物3・4階がグループホームの住居で、2階に同一法人のデイサービスが併設している。開設後10年が経過する中で、本部による家族アンケートの実施で意見を収集し、利用者・家族の満足度などのサービス向上に向けて真摯に取り組んでいる。介護計画は全職員で見直し、個別の意向や運動量の確保を取り入れて、最良のケアを提供できるように進めている。法人のバックアップ体制の下で各マニュアルや書式類も整備されている。併設のデイサービスと避難訓練や夏祭りを合同で行い、デイサービスの車輛を借りて遠出の外出も可能になるなど、併設のメリットを活かし支援をしている。事業所全体が一つの目標に向かって取り組むための組織的な見直しを行い、職員がユニット間を移動し全利用者の把握とサービスの均一化等の底上げと共に、職員間の良好なコミュニケーションにも繋がっている。協力医と24時間の連携で看取りケアも行い、医療体制の充実は本人・家族の安心感になっている。職員は家族と常に相談しながら外出機会を作り、利用者が楽しく過ごせるように笑顔で接している。

V. サービスの成果に関する項目(3F アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者様一人ひとりが地域とのかかわりを持ち健やかに生活を送れるよう支援している。理念は事務所に掲示しグループホーム会議内で再確認を行っている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をパンフレットにも記載し周知している。会議の中で利用者の尊厳について理解を深め、職員は理念にある「ともに・たのしく・すこやかに」を特に意識して実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の夏祭りに参加をしたり、事業所内の夏祭り、敬老会で町内会の方をお招きし催し物をして頂いている。また、週1回地域の清掃活動を入居者様と行っている。	町内会の行事や清掃活動に継続して参加し、老人会の歌を楽しむ集いに参加する利用者もいる。事業所夏祭りには町内会から出店の手伝いもあり、町内会と一緒に地域ぐるみでの交流機会と考えている。子供との交流が少ないので幼稚園などとの関係作りを検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の夏祭りに参加し交流を深めると共に認知症の方の理解をして頂いている。また、地域の方々のご家族・知り合いのお困りごとの相談にのっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に1回、計画的に開催しサービス提供の内容報告を行っています。また、参加できなかったご家族様の為に会議録の送付を行っています。	会議では事業所報告と運営の質疑応答を中心に行い、災害対策も話題にしている。常に参加している委員は、町内会役員、地域包括支援センター職員、家族が1名と少数の委員で話し合う回数が多く、家族や外部からの参加者が少ない。	年度初めにテーマ設定の年間計画を全家族に送付し、また2か月毎の会議案内時にもテーマの意見を頂く工夫で、家族参加の増加や意見が反映されるよう期待したい。民生委員や地域知識者など外部者の継続的な参加を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センター職員には2ヶ月に一度の運営推進会議に参加していただき連絡をとっている。札幌市管理者連絡会にて情報を伝え協力関係を築いている。	書類など分からない時は電話や市に出向いて担当者に確認している。地域包括支援センターと連携し、高齢者の「地域で見守り」推進に協力している。必要に応じてオムツ支給制度の申請を支援し、生活保護担当者とは連絡を密にしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	グループホーム会議内で研修を行い、身体拘束は絶対に行わないという共通意識を職員一同持っている。また、出入りに口に鈴をつけることで、施錠を行わない工夫をしている。	新人研修資料やマニュアルに「禁止の対象となる具体的な行為」を記載し、全体会議の中で年に数回は内容を確認している。勉強会で言葉による拘束や禁止語を使わないように話し合っている。出入りが分かるようにエレベーターやユニットの入り口に鈴をつけ、安全に見守っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	グループホーム会議内で研修の時間を設けています。		

ツクイ札幌山鼻グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業を活用されている方は現在いません。キーパーソンの高齢化にともない、必要な方へは制度の説明を行い、いつでも活用して頂けるようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書、契約書を読み合わせて説明を行い、質問には丁寧に答えし理解、納得をしていた		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の来訪時には会話の場を持ち要望や苦情を聞き改善している。。また直接、言いづらい方の為にエレベーター横に意見箱を置いている。	本部による家族アンケートを年4回実施し、会議で結果と対応を話し合っている。家族の意見などは個別の記録「家族との関わりノート」に記載していたが継続しておらず、家族のささいな思いをも職員間で共有できるように、再開したいと考えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、グループホーム会議を行い、運営状況、本社からの伝達事項を行っている。また、ユニットごとで会議を行い業務の流れを確認し意見を出し合っている。	全体会議に参加できない職員にも内容が行き渡るように資料を多くつくり配布している。業務分担している職員からの報告や意見を諮ることもある。所長は年に1回の個人面談の他、必要に応じて個別に話し合っている。職員が直接意見や相談ができる窓口を本部に設置している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	「こころのケアなんでも相談」にて面接相談のカウンセリングを行っている。就業契約更新時には個別に面談を行い向上心を持って働けるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の情報を開示し受講を積極的に勧めています。また会議内では職員の困りごとに対しての講習や話し合いの場を設けています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	中央区グループホーム連絡会へ参加し意見交換を行いサービス向上につなげています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用開始前に施設見学をしていただいたり、実際に来る事ができない方へはこちらから訪問し、本人の困りごとを聞き今後の生活について十分話し合っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様だけの面談や電話での相談を受け付けている。サービスを利用する不安や今後の生活での要望を伺うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族様との面談にて必要としている支援を聞き入れると共に状況、状態を見極め市町村独自のサービスの利用も取り入れられるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は入居者様一人ひとりの生活歴を大切に得意な事、出来る事を一緒に行っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	2ヶ月に1回「ふれあい便り」の送付し、家族が見られないグループホームの生活をお知らせしている。また、ご家族さまから本人の昔の様子をお聞きしケアに活かせるようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が希望された所へ自由に電話が掛けられるようにしている。また知人が来訪された時は、ゆっくりと自室や談話室で過ごしていただけるよう支援している。	家族の協力で馴染みの場所に出かけられるように支援している。地域の友の会や師弟関係の方の来訪時には、居室などでゆっくり過ごせるように配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事やレクリエーションなどで、利用者同士が一緒に活動しコミュニケーションをとりやすいよう工夫している。職員は利用者同士の関係が良くなるようフロア会議で話し合いをし支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族様の要望に応じて相談、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりを通して一人ひとりの思いを汲み取るようにしている。困難な場合はカンファレンスで検討し本人の立場になったケアを支援している。	会話から意向を聞き取り、発語が難しい方でも満足な表情を見て思いを把握している。暮らしや生活のアセスメント表を6か月毎に作り直し、情報を蓄積して介護計画に取り込んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族に生活背景調査票の記入をお願いしたり、本人や家族、友人から話を伺い生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様一人ひとりの出来る事、好きな事を把握し個別の支援を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様一人ひとりの想いを大切に出来るようアセスメントを行い、カンファレンスで話し合いをしている。話し合った事をケアプランに反映している。	介護計画は3か月毎に見直し、居室担当職員はモニタリングと計画の達成度を記録し、それらを基に計画作成担当者は評価を行い、カンファレンスで確認後に介護計画を作成している。介護計画に連動にした日々の記録として充分とは言えない。	介護計画の目標に沿って、状態の変化やケア内容などを記録し、次回の見直しに繋がるように計画を意識した日々の記録を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録には、入居者様の様子や会話の内容を記入し申し送りで情報を共有できるようにしている。また、その内容をケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様の身体状況やご家族様の生活状況の変化を踏まえ柔軟に対応している。本人やご家族の同意のもと訪問診察を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問美容の利用が出来るよう支援している。また、2階にあるデイサービスと夏祭りを行ったり、カラオケ大会等の行事に参加させてもらい楽しんでいただいている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診を月2回行っている。家族の意向を往診医に伝えたり、希望時には家族にも往診に同席して頂いている。また、他の医療機関へ受診できるよう家族に同行を依頼したり、職員が受診同行している。	協力医の往診時に家族とも話し合う機会を作り、安心できるように対応している。専門的な他科受診時には職員が同行し、必要時は家族に電話で結果を報告している。「受診・往診報告書」を個別ファイルに綴じて把握している。	

ツクイ札幌山鼻グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションの看護師が週1回健康管理のため来訪している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は利用者様の情報を速やかに提供し、また退院時はスムーズにグループホームで生活が送れるよう、病院からの添書を職員全員で共有できるよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合における対応について家族と話し合い、方針を共有している。また、必要に応じ看取りケアの研修を行っている。	利用開始時に「重度化した場合の対応に係る指針」を文書で説明し同意を得ている。主治医判断の下で看取りケアを行う場合は、個別に看取り指針を作成し同意を得ている。主治医、関係者で看取り後の振り返りを行い、会議録に記載している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時には、医師、看護師、管理者への連絡体制を整えている。マニュアルをスタッフルームに掲示している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定避難訓練を実施している。	日中想定避難訓練は2階のデイサービスと合同で行い、夜間想定は独自で行い防災設備会社の助言を受けているが住民の参加は得られていない。災害備蓄品類は整備しているが地震などの対応は今後の課題である。また全職員の救急救命訓練の受講も充分とは言えない。	消防署立会いの下で夜間想定避難訓練を行い、その際に、役割を明確にして住民の参加も期待したい。また、地震などを想定し職員間での安全面の確認や、職員の救急救命訓練の計画的な受講を期待したい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の人格を尊重し、さり気なく介助を行うようにしている。	利用者の呼びかけは苗字か名前に「さん」づけとし、接遇の研修を行ったり「NGワード」を決めたりしている。個人ファイル等は事務所に保管し、記録は利用者から少し離れて記入している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりに合わせた説明や返答能力に応じた言葉掛けを行い自己決定が行えるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や就寝時間、散歩など一人ひとりの意向を聞き、思い思いの時間が過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時に本人に好きな服を選んでもらえるよう支援している。また、イベント時には家族の意向を聞きおしゃれが出来るよう支援している。		

ツクイ札幌山鼻グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる方には調理、盛り付け、片付けのお手伝いをしている。	利用者が下ごしらえや盛り付け、食器洗いなどを手伝っている。会社の決まりで職員は利用者と同じものを食べてはいない。誕生日に合わせて出前を取ったり、外食に出かけて楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	給食委員会を構成しバランスの良い食事になるよう話しあっている。また、温度板には食事・水分摂取量・体重を記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者様の能力に応じ、声掛けや出来ない部分の介助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンが分かるように排泄チェック表を使用し誘導や声掛けを行っている。	全員の排泄チェック表をもとにパターンを把握し、できるかぎり羞恥心に配慮して誘導している。日中も夜間もほとんどの利用者がトイレで排泄できており、利用者に応じて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	オリゴ糖や水分補給を促したり、体操や散歩などで身体を動かしてもらい便秘予防を心がけている。時には主治医に相談し対応を求める事もある。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日、入浴が出来るような体制をとり、最低週2回、入浴が出来るようにしている。入浴を拒む場合も本人の意思を尊重しタイミングをみて再度の声掛けをしている。	日曜日以外の午前午後とも入浴可能で、各利用者が週2回以上入浴できている。拒否がある場合は時間を変えたり翌日にずらして誘導し、入浴につなげている。入浴の際は歌を歌ったり、話をして楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼間、出来るだけ活動的に過ごせる様、体操・レクの声掛けを行っている。また、夜間は無理な入床の声掛けは行わず、眠くなるまで一緒に過ごし眠れない不安感を抱かないよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診報告書や薬の説明書の確認を行い、わからない事があれば、看護師、や薬剤師に説明をしていた。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な事、出来そうな事をカンファレンスで話し合い、新たな役割作りが出来るよう支援している。また散歩やレクを楽しんでいただけるよう支援している。		

ツクイ札幌山鼻グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3F)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気のいい日に入居者様の希望があれば散歩に出掛けている。また、年に数回外出行事では入居者様の意向を取り入れている。	夏季は毎日のように散歩や外気浴を行っており、車いすの利用者も外出できている。近くの喫茶店に出かけたり、地域のお祭りに参加して楽しんでいる。年間行事では、花見や紅葉狩り、買い物ツアーなどに出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物ツアーでお金を所持してもらい使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	好きな時に電話が使えるよう、談話室から見える場所に電話機を置き希望時には電話をかけられるよう支援している。手紙や年賀状が出せるよう支援もしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	談話室や廊下などに季節を感じられ装飾をしている。入居者の好みに合わせたCDを流したり、温度や湿度調整を行い快適に過ごせる様に努めている。	事務所やキッチンから近く場所に居間と食堂が一体となった共用空間があり、利用者がゆっくりと過ごしている。廊下の突き当たりにも椅子を置き、休めるようにしている。壁には利用者の習字や塗り絵の作品、風景写真などが飾られ、家庭的な雰囲気となっている。温度や湿度も調整されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室には、皆で自由に座れるソファを置き自由に過ごせる様にしている。また、玄関先にベンチで天気のいい日に日向ぼっこを楽しめるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人、家族と相談しそれまで使っていた物や好みの物を持ってきていただいている。家具の配置も本人や家族と相談し行っている。	居室には備え付けのクローゼットがあり、利用者が自由に戸棚やテレビ、家族の写真など馴染みのものを持ち込むことができている。ベッドを好まない方は布団で寝られるようにしている。壁にもカレンダーや花などを自由に飾っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや風呂場などに分かるように表れをつけている。毎日の掃除の時に混乱や転倒を招く物がないかチェックしている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170100937		
法人名	株式会社 ツクイ		
事業所名	札幌山鼻グループホーム		
所在地	札幌市中央区南15条西13丁目2-18		
自己評価作成日	平成25年12月13日	評価結果市町村受理日	平成26年1月27日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=0170100937-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成25年12月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「3Fユニット」に同じ

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(4Fアウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(4F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ともに・楽しく・すこやかに」という理念のもと、地域に根付いた真心のこもったサービスを目指している。理念を事務所に掲示している。ほぼ職員全員周知している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、老人会やお祭り等に参加している。また、地域の清掃活動を週1回行なっている。「子供110番」に登録し、地域とのつながりを大切にしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の夏祭りなどに地域の方にも参加していたり、町内会・老人会など共に楽しく交流を図りながら認知症の症状や支援方法を伝え、理解が深まるよう働きかけている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度運営推進会議を行なっているが、ご家族の参加が少なく、意見をサービス向上に活かしているとは言えない。会議録は、ご家族に郵送し会議の様子をお知らせしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者は、中央区管理者連絡会、札幌市管理者連絡会にも参加し、他GHと交流を図っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	GH全体会議の中で、身体拘束に関する勉強会の時間を設けており、職員全員が身体拘束の無いケアを実践している。夜間は防犯のため玄関の施錠を行なっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する勉強会を行い、職員全員が理解の上、丁寧なケアの実践に結びつくよう取り組んでいるが、常に意識していないと、言葉掛け等が強い口調になるときがあり、お互いに注意していくことを心がけている。		

ツクイ札幌山鼻グループホーム

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(4F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業は現在利用は無いが、今後成年後見制度も含め研修などで学ぶ機会を持ち、もっと活用していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書、契約書を読み上げ、説明を行っている。質問には丁寧にお答えし、理解・納得を図り同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者、職員はご家族の訪問時やお電話などで、気軽に意見・要望・相談をしていただけるようコミュニケーションをとっている。契約時には第3機関へ苦情を申し立てできる事を説明している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	GH会議を月1回行ない、意見交換や伝達などを行っている。又、職員は意見や提案があれば都度、管理者に直接伝えることもしている。管理者に言いづらい、言えないことについても、各フロアに本部長・エリア統轄の連絡先を掲示し対応できる仕組みがある。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社員は賞与前に管理者・エリア統轄・本部長による評価が行なわれ、賞与に反映される。職員には経験加算・能力加算を設けているが、内容について知る機会が無いため、向上心を持って働ける環境作りを行なう必要がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修・北海道内の事業所全体での研修・市内3か所の系列GHの合同研修など様々な研修に参加している。研修参加者は会議の際に伝達研修を行い、職員全員の周知・ケアの向上を目指している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	中央区グループホーム連絡会に参加している。今後スタッフ研修には職員も積極的に参加し交流を図っていきたい。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(4F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に管理者・計画作成がご自宅を訪問したり、事務所で面談を行なうなどできるだけ多くの情報を引き出し、困り事・不安・要望を把握できるよう努めている。また、相談しやすい関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご希望があればいつでも、ご家族から相談いただける体勢をとっており、またいつでも面会や問い合わせのできる風通しの良い関係作りを行なっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族とお話する中で、まず必要な支援を見極め、地域資源を含めたサービスの対応を行なっている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援を常に意識できる事はご本人が行い、できない事の手助けを行なうようにしている。又、定期的にカンファレンスを行い、ADLやIADLの状態に応じて対応の変更を行っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事の際はご家族に参加していただいたり、普段の面会やお電話などご家族との絆を大切にしている。また、体調の変化の際は医師を交え、ご家族と一緒に今後の検討を行い共に支えあう関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの理容室の利用や友人の訪問、電話連絡、遠方の親戚との手紙や電話での近況報告、趣味のものを購入するための外出などご家族の協力をいただきながら、ご要望にそえるよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれのお好きな時間を過ごされる事を尊重しながら談話室で過ごされたり、家事をされる時などは職員が関わり良い関係が築けるように配慮している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(4F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院などで退去になった方のご家族へお電話で状況などをお伺いしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意思を尊重し、自己決定できるよう支援している。困難な場合は生活歴・アセスメントをもとに良い方法などを検討し、本人の思いや意向を把握できるよう努力している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族のお話の中から情報収集したり、これまでの様子・経過をケアマネジャーから情報提供いただき、日常生活に反映できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人らしい生活、その人が持てる力の発揮ができるよう、色々な視点からのアセスメントを行い、情報交換、カンファレンスにてその人の状態に合った生活ができるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月に1度の個別カンファレンスで総括と今後の検討を行なっている。居室担当の職員は入居者の代弁者としてモニタリングを行ってもらい、介護計画の内容を常に意識できるようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	管理日誌に日中と夜間の状況や気になった事などを記入し、職員が休日あけでも様子が掴めるよう工夫している。又、入浴・排便・リネン交換・生活状況記録・温度版を作成し気になることをすぐに探しだせるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同一建物内にあるデイサービスと合同の夏祭りを行なったり、デイサービスの見学を行なっている。また、もう一つのユニットとも交流を図りイベントなど合同で行なっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアによる話相手や老人クラブの利用、イベント時には町内会の方々による踊りやお祭りのお手伝いなど交流を図り、協力していただいている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医は、入居者の状態を把握しご家族への説明や相談にのっている。本人やご家族の気持ちを重視し、昼夜を問わず対応可能である。GHと医師との連携は良くとれている。看取りや研修にも関わっていただける。		

ツカイ札幌山鼻グループホーム

自己評価	外部評価	項 目	自己評価(4F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションより看護職員が週1回派遣され、入居者の健康管理・職員からの情報や相談・医師との連絡調整を行なっている。また、必要な機能訓練を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は介護・看護添書を病院に提出し病院と連絡をとったり、病院に面会に行ったり、CWと連絡をとるなど情報交換を行なっている。退院時は病院からの情報提供書を活用し連携を図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態により早いうちにご家族に考えておいてほしい事をお伝えし、医師を交え詳しい説明を行い、今後選択が必要になった場合の対応についてご家族と一緒に検討している。また、職員は看取り研修を受け理解を深める努力している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを見やすい場所に配置している。しかし、全職員の実践力はまだ不十分である。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を行い避難場所の確認や掲示をしている。自衛消防組織を編成している。また、災害時用の備品の保管を行なっている。(飲料水・暖房器具・照明・タンク・電池・ガスボンベなど)		

Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いや声掛けの仕方などが命令口調や荒くならないよう気をつけ、更衣介助や排泄介助などプライバシーに配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望などを話しやすいような対応に努めている。また、拒否があれば無理強いせず、必要なことは時間をずらして声掛けしたり、職員を替えたり工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に沿うことを目指しているが、ある程度その日の予定に沿って生活している。ADLが自立されている方は、それぞれ自由に過ごされていることが多い。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみに注意をはらい支援している。訪問美容を利用し、カット・パーマ・毛染めをお好みでされている。行事の際などはお化粧の支援も行なっている。		

ツカイ札幌山鼻グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(4F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	給食委員会によりバランス良い献立作りを行なっている。調理や盛り付け、食器洗浄を一緒に行っている。職員は昼食時のみ一緒に食事をとっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	塩分量・食事量に注意をはらっている。1日の水分量をチェックし、不足しないよう支援している。また嚥下の状態により個別に食材の形状の工夫を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの声掛けを行い習慣化できるよう支援している。介助が必要な方には毎食後職員が口腔ケアを行っている。また、週に1回訪問歯科による口腔内チェックと清掃を利用している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ADLが低下し、車椅子や立ち上がりが困難な方も、日中はトイレにお連れし排泄介助を行なっている。排泄量や時間を記録し、状態や能力に応じた最良の方法をカンファレンス時に検討している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を使用し排便の状態などを把握している。人により医師の指示による薬の使用や、朝の牛乳・豆乳の摂取・砂糖の代わりにオリゴ糖の使用・歩行や運動などの対応を行なっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に2回の入浴を行なっている。基本的に曜日を決めて入浴しているが、体調などにより臨機応変に対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本的に自由に休息していただいている。体調等により日中でもベッドで休めるよう配慮している。また、居室担当者により定期的によりネン交換し、清潔な環境で気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	調剤薬局に薬の管理を担ってもらうと共に、薬は鍵付きキャビネットに保管している。服薬の際は間違いのないよう職員がさらに確認している。受診報告書・処方箋などはファイルに綴りいつでも見ることができる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な家事に参加していただいたり、地域の清掃や別ユニットの訪問、趣味の楽器や歌で他の入居者とともに楽しむ場を設けるなどの個々に応じた対応を行なっている。		

ツクイ札幌山鼻グループホーム

自己評価	外部評価	項目	自己評価(4F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日とはいかないが、できるだけ外気浴や散歩ができるよう努めている。また、ご家族の支援による買い物、行きつけの理容室の利用、散歩を行なっている。行事でお花見、公園散策、外食、地域のイベント参加などの外出の機会を設けている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には現金の所持や管理は行っていないが、現在2名ほど本人とご家族の要望により現金を所持されている方がいる。必要なものを購入したり、美容院代の支払いなどに使用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所内の電話を自由に使用できる。電話の取次ぎや職員がお声掛けにて遠方の家族に電話をかけていただくなど配慮している。また、手紙を自由にだすことができる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	談話室には季節に応じた装飾を行なっている。廊下には入居者の作品などを展示している。トイレや洗面所には場所の表示を行い、居室には表札や名前の表示を行なって間違えないようにしている。テレビの音量や日差しが強い時はカーテンで調節するなど不快のないよう配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間ではそれぞれ楽しく過ごせるよう配慮している。入居者同士のトラブルには職員が間に入り対応している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はご本人やご家族により過ごしやすいよう配置を行なっている。また、ご自宅からお好みの物や思い出の品などを持参されている。ご家族が自由に居室の飾りつけなどをされている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や談話室に手すりを配置。歩行の際に危険の無いよう障害物を置かないようにしている。トイレ・浴室・洗面所・居室にナースコールを設置。場所の表示を行い混乱を防いでいる。靴置き場には椅子を置き安全に自分で靴を履く(脱ぐ)ことができる。		

目標達成計画

事業所名 ツクイ札幌山鼻グループホーム

作成日：平成 26年 1月 27日

市町村受理日：平成 26年 1月 27日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	4	会議では事業所報告と運営の質疑応答を中心に行い、災害対策も話題にしているが常に参加している委員は町内会役員、地域包括支援センター職員、ご家族様が1名と少数の委員で話し合う回数が多く、ご家族や外部からの参加者が少ないことが現状であり課題である。	参加者を増やし内容の充実化を図る。	・開催時間を検討する。 ・町内会の民生委員や地域知識者にも呼びかける。 ・内容の検討、年間計画を立てる、ご家族に送る(参加しやすい研修形式の内容を考えてみる)等 ※参加できない時は意見を頂ける工夫を考える。	1年
2	26	介護計画は3ヶ月毎に見直し、担当職員はモニタリングと計画の達成度を記録し、それらを基に計画作成担当は評価を行い、カンファレンスで確認後に介護計画を作成しているが介護計画に連動した日々の記録として不十分なところが多いのが現状であり課題である。	介護計画を意識し連動した日々の記録が出来るようにし見直しに繋がるようにする。	・介護計画の目標に沿った日々の記録が書けるよう記録用紙の見直しを図り介護計画に連動できるようにする。 ・それぞれの介護計画の目標が分かりやすいよう連動を考えた書式を検討する。	1年
3	35	日中想定避難訓練はデイサービスと合同で行い夜間想定は独自で行い防災設備会社の助言を受けているが住民の参加が得られていないのが現状であり災害備蓄品類は整備されているが地震対策されていないことが課題である。また、職員の救急救命訓練の受講も不十分なところが課題である。	・夜間想定避難訓練においては消防署立会いの基行なえるようする。 ・地震を想定した安全確認を職員間で確立していく。 ・職員の救急救命講習の実施。	・新たに避難訓練の際、事前に町内会にも告知し参加を呼びかける。 ・地震を想定したときのフローチャートを職員と一緒に考え作成する。 ・救急救命訓練講習を計画的に受講を進めて行く。	1年
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。